資料１

戦略的イノベーション創造プログラム
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

平成２６年度 評価結果（農業部分抜粋）

平成２７年４月１６日

総合科学技術・イノベーション会議

戦略的イノベーション創造プログラム（ＳＩＰ）ガバニングボード

■　次世代農林水産業創造技術

１．意義の重要性、SIP の制度の目的との整合性（1.6 点）

肯定的な評価としては、農林水産業の高度化、市場創出は非常に重要である、新産業創出や地域振興に資する重要な課題である、ＳＩＰに適した課題である、との指摘があった。

改善すべき点としては、総合的な意義はあるが、あらゆるテーマを扱っており、テーマ間の相乗効果が認め難いとの指摘があった。

２．目標（特にアウトカム目標）の妥当性、目標達成に向けた工程表の達成度合い（1.2 点）

改善すべき点としては、

- 具体的指標の設定は疑問であり、抽象論に終始しているのではないか、
- 省力化等に対しては各国固有の事情があるので日本のニッチ市場に特化し過ぎず、海外展開可能な方向性を常に意識すべき、
- 目標達成に向けた更なる努力を期待、

との指摘があった。

３．適切な体制構築/マネジメントがなされているか。特に府省連携の効果がどのように発揮されているか（1.1 点）

肯定的な評価としては、研究開発から商品化のための連携プラットフォームの体制確立の方向性は評価できる、技術的な面での相乗効果の例がいくつか見えてきた、との指摘があった。

改善すべき点としては、

- コンソーシアム間の連携を具体的にどのように進めるのか、計画に記載されている内容だけではわからなかったため明確にすべき、
- 新規発見等の取入れができるようにすべき、
- 技術の新しい芽を導入しやすいが、総花的にならないようにすべき、

との指摘があった。

４．実用化・事業化への戦略性、達成度合い（0.9 点）

肯定的な評価としては、具体的成果がみられるとの指摘があった。

改善すべき点としては、

- 最終需要家である消費者の選好を踏まえた研究になっていない。消費者に直結する農業固有の性格を考慮した研究が必要、
- 概ね適切に進捗しているが、生産現場の農家等の声の吸上げや国民の理解を深める努力を通じて実効性のある事業へと発展させることが不可欠、
- 事業化のプレーヤーが不明であるため明確化すべき、
- 食品会社、流通会社との連携をより強るべき、
- 出口として地域の課題解決へ向けた地方創生のモデル事業としてビジネスモデル実証を試行してみることも必要、
- 生産現場の状況にも配慮し、地方の中小企業などで進められている技術開発にも目を向けより優れた成果を挙げていくべき、

- ゲノム編集技術による品種改良は、社会科学者と一緒にモデル作りを進めるだけでなく、アウトリーチ活動も非常に大切、
- 大規模化を前提とした効果を検討するもの良いが、そこへもっていくための道筋の検討が実現可能性の観点から重要、

との指摘があった。

５．その他特記事項

改善すべき点としては、事業化に向けて資本投下できるレベルまで成果を高めてほしい、テーマごとに評価者が異なるようであるが、コーディネート機能の強化、知財戦略の検討へのフィードバックの観点からも、全体を評価するという視点も必要ではなかったか、との指摘があった。

６．平成２７年度計画

改善すべき点としては、個々のテーマの成果をどのように統合するかが見えづらいため明確化すべきとの指摘があった。

７．総合評価（Ｂ）

肯定的な評価としては、サイエンス、テクノロジーをベースに志の高いテーマを精力的に進めているとの指摘があった。

改善すべき点としては、

- 出口の定量的目標がシステマティックに設定されておらず断片的なので工夫すべき、
- ＳＩＰというには羅列的に新しいテーマを集めただけの印象がある。共通技術の構築や抜本的課題の解決手法の開発など、全体としての戦略性を明確にすべき、
- 事業化の道筋を２年目以降具体化すべき、
- プロジェクト全体での経済的効果が不明のため明確すべき、
- コストの面などで農家に実際に受け入れてもらえるかという観点からの取組に力を入れるべき、

との指摘があった。